

＜「親子で登る自立の坂道」期：「親が子離れできない」編－1＞

対象（時間）：中学・高校生の親（120分程度）

思い出してみても… ～私にもあった青春時代～

【ねらい】自分の青春時代を思い出し、子どもの思いに寄り添いつつ言葉を届ける術を考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、模造紙（各グループ1枚）、フェルトペン（裏写りしないもの）、マグネット、付箋

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。
（5分）	○ファシリテーター（学習支援者）自己紹介、主旨・ルール等説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	・机は講義形式
（10分）	アイスブレイク（雰囲気づくり） 「しゃべる運動会」 ①円になって、中学または高校の体育祭の種目を順に思い出して言ってもらおう。 ②簡単な質問をして「はい」「いいえ」「どちらでもない」でグループに分かれる。 ③最後に、子どもの学校（中学 or 高校）または性別にグループ（5～6名）を作る。 ④グループ内で自己紹介をする。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 →「つまったら罰ゲームですよ」などと言いながら。（ユニークな種目については、簡単に説明してもらおう。） → 例・学生時代の得意な科目 ・思い出せる友人の数 など →この間にワークシートを配付する。	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
（15分）	＜考えましょう、出し合ひましょう＞ ○まず、P3☆「思い出してみよう」に記入し、意見交流する。	→これは非常に盛り上がるので、適当に時間を切る。	
（10分）	○自分がわが子と同じ年齢だった頃を思い出して、P2上の設問に記入	○自分はどのように親と関わっていたか、どのように親のことを感じていたのかを思い出してもらおう。	
（20分）	○P2下の設問に自分のあの頃と同じだと思ふことを書く。（2分） ○グループ内で、発表しあう。（18分）	○周囲の大人の意見を素直に聞けない時期が自分にもあったことを思い出してもらおう。 ○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは発表しなくてもよい。（パス有り）	
（25分）	○P3上の設問に記入 ○グループ内で意見を模造紙にまとめる。	○自分の経験をとおして、子どもが悩んでいるとき、「誰に相談するのか」「親にどのように接してほしい」と思っているのかを考えてもらおう。 ○「子どもに真剣に向き合う親の姿勢」について考えてもらおう。 ○周囲の誰か（友人や部活の先輩・担任など）がアドバイスするほうが効果的であるケースもあることを感じてもらう。	付箋
（15分）	○グループごとに発表 ○P4資料を読んで、全体で意見交流		
（15分）	＜学習を振り返りましょう＞ ○ワークシートへの記入 ○ファシリテーターの話		
（5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰

〈メモ〉